

活動名	団体名	ロボカップジュニアジャパン 広島ブロック運営委員会
ロボット競技へのチャレンジを通じた知的好奇心の醸成活動	地域	広島県広島市
	代表者	代表 山野 真一
	支援金額	25万円
活動概要	<p>子ども達の知的好奇心を刺激し、科学への関心を高めて、次世代のエンジニアの卵を育む事を目的とする。自律型ロボットを使用した競技を行なう中で、「現象の把握」から「仮説・検証」といった「問題解決」のプロセスを楽しみながら学べる場を提供してゆく活動である。</p> <p>本年度は、体験会後にフォローアップ講座を設け、「基礎知識」の修得の機会を設け日本大会に向けた取り組みへの参加を呼び掛けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2013年5月の日本大会(会場:玉川学園)に4チーム8名が参加した。 ・2014年3月の日本大会(会場:埼玉大学)に5チーム13名が参加した。 <p>◆実施時期 2013年4月10日～2014年3月30日 広島県内:広島地区 広島市子ども文化科学館、広島市青少年センター 福山地区 福山大学、福山大学宮路茂記念館</p> <p>◆参加人数 ロボカップ体験会 6月1日、2日(子ども文化科学館)80名 ロボカップ体験会 8月17日(福山大学)12名 せとうちオープン大会 21名 ロボカップジュニア広島大会 51名 ロボカップ練習会 延べ138名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 302名</p>	



ジャパンオープン



体験会



広島ブロック大会



せとうちオープン 2013 懇親会

◆実施に伴う効果

- ・2013年ジャパンオープンに4チーム8名が代表として参加。
(サッカーBオープンで6位、レスキューAプライマリで4位)
- ①ロボカップジュニア体験会
参加者からは、「難しかったけど面白かった」「またやりたい」と、好評を得た。
保護者からは、「教育的側面が良い」「躰の要素が良い」という評価を得た。
- ②ロボカップジュニア・フォローアップ講座
「どう指導してよいか判らない」という保護者から、「基礎が学べるから良い」という評価を得た。
- ③ロボカップジュニアせとうちオープン競技会
大学との調整が難航し、1か月前の告知であったが、遠方は滋賀や福岡から参加あり。
世界大会でのトップレベルの強豪の参加もあり、大変好評であった。
- ④ロボカップジュニア広島ブロック大会
広島代表として、2014年日本大会へ5チーム13名を選出した。
(サッカーA2名、サッカーBライトプライマリ2名、セカンダリー2名、レスキューAプライマリ3名、
レスキューAセカンダリー4名 <各カテゴリー1チーム>)

◆苦労した点

- ①広報活動
体験会のチラシを広島市内/福山市内の各小中校に配布する際、「配送」に苦慮した。広島市は市役所に「ポスト」が設けてあり、市教委の協力の下、これを使わせて頂いた。その他はメール便での配送とした。メール便での配布エリアからは、応募が著しく少ないことから、「配布していない」可能性が高い。これは今後の課題である。
- ②保護者の理解
「子どもが自身で問題を解決してゆく」競技であるが、「保護者の介入」「保護者の放任」の両極端が多い。基礎技術は「指導の範囲」であるが、「どうしたいのか」は本人が考えねばならないものであり、ここの(保護者への)説明が今後の課題である。
「自分でやりたい保護者」向けに、近隣のブロックと合同で「おやじリーグ」の開催を企画している。ハードウェアの規定を少し厳しくし、限られた中で「子供たちの手本となる」「子供たちに技術を開示できる」という前提の競技として2014年5月のせとうちオープンで実施する。
(※次年度報告書に記載します。)

◆今後の課題・発展の方向性

- ①子供たちの継続性
毎年、「体験会に参加し、県内予選に出るが、敗退してそこで辞めてしまう」という子が多い。勝ちあがるチームは「続ける」から強いのであるが、保護者含めて多くがそこに至らない。一方で、全国大会出場者は、懇親会で「友達」を作って、「また会うため」に頑張る子達も多い。そこで、地方大会である「せとうちオープン」を継続し、内容を充実させてゆくことで、「子供たちのコミュニティ」の形成に力を入れてゆく。(実際には、「保護者のコミュニティ」も非常に大切であり、保護者の社交性が子供に反映される部分が多い。FacebookなどのSNSで連携が広まってきている。)
- ②卒業生の活躍による継続性
日本大会への出場経験のあるロボカップの卒業生は、スタッフとして活躍する例が多い。進学先、就職先の他のブロックでもスタッフとして活躍しており、運営に携わる事で「ボランティア精神」や「コミュニケーション能力」を育むよき場となっている。保護者のコミュニティで連絡を取り、「卒業しても携わる場」を提供してゆく。(※日本大会では、このOB達が同窓会的に集まり、スタッフとして活躍している。)

◆活動を終えての感想・意見等

「意味」「意義」「価値」というのは、「観る人」それぞれに異なるものだというのを毎年感じます。運営サイドは「技術」「科学」というよりは「問題解決」「ルール」「礼儀」を重んじているのですが、保護者の方々には「難しそう」「無理」「お金がかかりそう」と受け取られる事が殆どです。広島では「伝える側」が教職員や塾講師など「ではない」ため、他の地域以上に苦戦しています。ただ、7年以上の活動により、全国の保護者&運営者から情報が入る様になってきました。他ブロックでの成功例を試すなど、挑戦を「継続」していこうと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。